

[資料・その他]

北海道内の高等教育機関に所属する学生のCES-DとSOCの関連

木口 幸子¹⁾, 米田 政葉²⁾, 安藤 陽子³⁾, 小川 克子³⁾, 志渡 晃一⁴⁾

- 1) 北海道文教大学人間科学部看護学科
- 2) 北海道医療大学大学院看護福祉学研究科博士課程
- 3) 札幌保健医療大学看護学部
- 4) 北海道医療大学大学院看護福祉学研究科

キーワード

メンタルヘルス, 抑うつ症状, CES-D, SOC, 高等教育機関

I. 緒言

これまで、保健医療福祉系学生を対象に行ってきた一連の研究(峯岸・坂手・志渡, 2010; 澤目・佐藤・上原・蒲原・岡田・志渡, 2011a; 澤目・佐藤・上原・蒲原・岡田・志渡, 2011b; 澤目・上原・佐藤・池森・志渡, 2012; 志渡・澤目・上原・佐藤・池森・長谷川, 2011; 志渡・上原・佐藤・澤目・池森・長谷川, 2012; 志渡・米田・吉田, 2014)によると、米国国立精神保健研究所疫学的抑うつ尺度(the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale; 以下CES-Dとする)得点が16点以上の学生はおおよそ6割であった。また、関連要因について、主観的健康観、ライフスタイル、人間関係に対する満足度、主観的幸福感、ひきこもり親和性、首尾一貫感覚(Sense of Coherence, 以下SOCとする)が指摘されている。中でも、SOCは独立した要因として認められており、その相関係数は-0.6前後で推移している。このことから、SOCを高めることが抑うつの予防につながる可能性を指摘している。

そこで、本研究では、CES-DとSOCの関連について①保健医療福祉系大学に所属する学生について同様の結果が言えるか、②文系、経済系、教育系大学に所属する学生においても関連の一貫性が認められるかについて検討することを目的とした。

II. 方法

1. 調査・期間・対象

2016年5月～7月に北海道内のA大学看護系、A大学福祉系、A大学歯学系、A大学薬学系、B大学リハビリテーション系、C高等学校専攻科看護系、D大学文系、E大学経済系、F大学教育系に所属する学生1636名を対象とし、無記名自記式質問紙による集合調査を行った。回収数は1552名(回収率94.9%)、有効回答

数は1431名(有効回答率92.2%、男性641名、女性790名)であった。

2. 質問項目

質問項目は1)基本属性4項目、2)CES-D日本語版20項目、3)SOC日本語版13項目の37項目とした。

3. 分類・分析方法

回収した質問紙をもとにデータセットを作成した(表計算ソフトMicrosoft Excelを使用)。分析に当たり、目的変数をCES-D、説明変数をSOCとし関連を検討した。

CES-Dは、4件法20項目であり、うつ気分(7項目)、身体症状(7項目)、対人関係(2項目)、ポジティブ項目(4項目)の4つの下位尺度からなり、ポジティブ項目についてはすべて逆転処理を行った後、他の3項目との合計得点を算出する。得点は0点から60点までに分布し、16点未満に該当するものを「低うつ群」、16点以上に該当するものを「抑うつ群」と定義した。

SOCは7件法13項目であり、得点は1点から7点を配点し既定の方法で合計点を算出した。合計点数は13点から91点であり、13～45点を低値群、46～59点を中値群、60～91点を高値群と定義した。

分析にあたり、全体、性別及び施設別、専攻別のCES-D及びSOCの該当率と平均値を算出したのち、Spearmanの相関係数にてCES-DとSOCの関連を検討した。(IBM SPSS Statistics Ver.23を使用)。

4. 倫理的配慮

対象者に1)結果の公表に当たり、統計的に処理し個人を特定されることはないこと、2)調査によって得られたデータは、研究以外の目的で使用しないこと、3)調査に参加しないことで不利益を被ることはなく、かつ途中での同意撤回を認めるという条件を書面及び口頭で説明し、同意の得られたもののみ質問紙票に記

<連絡先>

木口 幸子

北海道文教大学人間科学部看護学科

入を依頼した。なお、本研究は北海道医療大学看護福祉学部倫理委員会の承認を得て行った（承認番号160 N20019）。

Ⅲ. 結果

1. 全体及び性別でのCES-Dの分布

表1に全体・性別でのCES-D及びSOCの分布を示した。

抑うつ群の該当率は全体で54.6%であった。性別にみると男性54.0%、女性55.2%であり有意な差は見られなかった。

CES-D得点の平均値は全体で18.1±9.9点、性別では男性17.7±9.8点、女性では18.5±9.9点であった。

2. 全体及び性別でのSOCの分布

表1に全体・性別でのCES-D及びSOCの分布を示した。

SOCの分布について全体では低値群26.2%、中値群52.4%、高値群21.4%であった。

性別にみると男性では低値群25.3%、中値群53.4%、高値群21.2%、女性では低値群26.9%、中値群51.5%、高値群21.6%であった。

SOC得点の平均値は全体で51.7±10.8点、性別では男性51.9±11.1点、女性では51.5±10.5点であった。

3. 全体及び性別でのCES-DとSOCの相関

図1に全体でのCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.59であり中程度の負の相関が認められた。図2に男性のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.55であり中程度の負の相関が認められた。図

3に女性のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.64であり強い負の相関が認められた。

4. 保健医療福祉系学生のCES-Dの分布

表2に施設・専攻別でのCES-D及びSOCの分布を示した。

抑うつ群の該当率について施設・専攻別にみると、A大学看護系52.4%、A大学福祉系62.8%、A大学歯学系54.6%、A大学薬学系47.7%、B大学リハビリテーション系61.9%、C高等学校専攻科看護系50.0%であった。

CES-D得点の平均値はA大学看護系17.8±9.5点、A大学福祉系20.2±10.0点、A大学歯学系18.3±10.9点、A大学薬学系16.8±9.1点、B大学リハビリテーション系8.2±8.9点、C高等学校専攻科看護系18.2±11.1点であった。

5. 保健医療福祉系学生のSOCの分布

表2に施設・専攻別でのCES-D及びSOCの分布を示した。

SOCの分布について施設・専攻別にみると、A大学看護系では低値群25.2%、中値群53.3%、高値群22.8%、A大学福祉系では低値群26.8%、中値群57.7%、高値群15.4%、A大学歯学系では低値群32.9%、中値群44.7%、高値群22.4%、A大学薬学系では低値群24.8%、中値群51.9%、高値群23.3%、B大学リハビリテーション系では低値群18.2%、中値群59.1%、高値群22.7%、C高等学校専攻科看護系では低値群27.0%、中値群43.2%、高値群29.7%であった。

表1. 属性別CES-D得点及びSOC得点

	CES-D			SOC					相関係数
	n	平均値(SD)	抑うつ群(%)	n	平均値(SD)	低値群(%)	中値群(%)	高値群(%)	
全体	1431	18.1(9.9)	782(54.6)	1457	51.7(10.8)	382(26.2)	763(52.4)	312(21.4)	-0.59
男性	641	17.7(9.8)	346(54.0)	659	51.9(11.1)	167(25.3)	352(53.4)	140(21.2)	-0.55
女性	790	18.5(9.9)	436(55.2)	798	51.5(10.5)	215(26.9)	411(51.5)	172(21.6)	-0.64

表2. 大学・専攻別CES-D得点及びSOC得点

	CES-D			SOC					相関係数
	n	平均値(SD)	抑うつ群(%)	n	平均値(SD)	低値群(%)	中値群(%)	高値群(%)	
A大学看護学系	246	17.8(9.5)	129(52.4)	246	52.6(11.1)	62(25.2)	131(53.3)	56(22.8)	-0.63
A大学福祉学系	121	20.2(10.0)	76(62.8)	123	50.1(10.9)	33(26.8)	71(57.7)	19(15.4)	-0.55
A大学歯学系	174	18.3(10.9)	95(54.6)	170	50.6(11.7)	56(32.9)	76(44.7)	38(22.4)	-0.63
A大学薬学系	128	16.8(9.1)	61(47.7)	129	52.7(9.5)	32(24.8)	67(51.9)	30(23.3)	-0.64
B大学リハビリテーション系	84	18.2(8.9)	52(61.9)	88	53.0(10.2)	16(18.2)	52(59.1)	20(22.7)	-0.49
C高等学校専攻科看護系	74	18.2(11.1)	37(50.0)	74	52.6(11.1)	20(27.0)	32(43.2)	22(29.7)	-0.75
D大学文系	186	17.1(9.0)	94(50.5)	189	53.1(10.9)	42(22.2)	98(51.9)	49(25.9)	-0.59
E大学経済系	236	18.4(9.9)	130(55.1)	241	49.9(9.7)	75(31.1)	132(54.8)	34(14.1)	-0.47
F大学教育系	163	19.0(10.2)	100(61.3)	164	50.9(11.1)	42(25.6)	90(54.9)	32(19.5)	-0.59

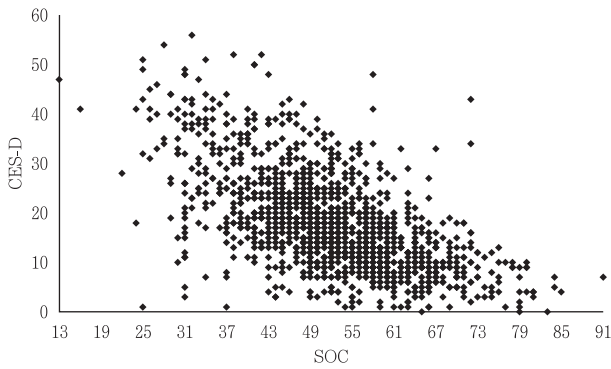


図1 CES-DとSOCの関連
(全体, n=1412 $r = -0.59$ $p < 0.05$ by spearman)

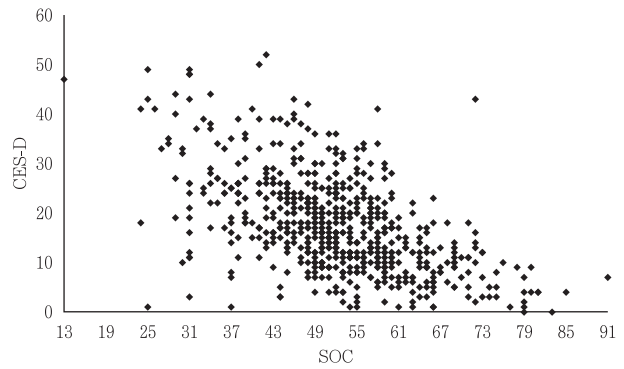


図2 CES-DとSOCの関連
(男性, n=623 $r = -0.55$ $p < 0.05$ by spearman)

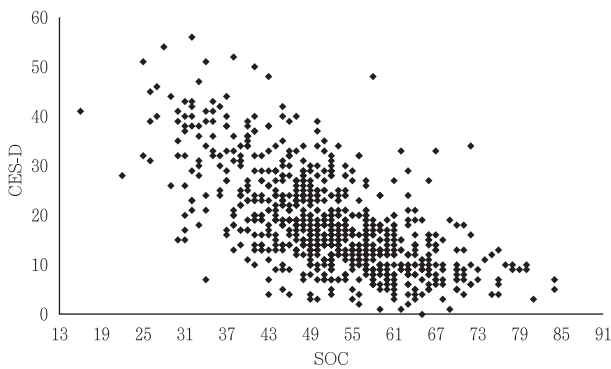


図3 CES-DとSOCの関連
(女性, n=773 $r = -0.64$ $p < 0.05$ by spearman)

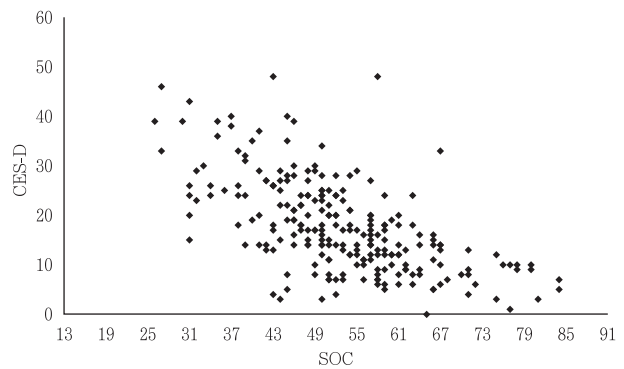


図4 CES-DとSOCの関連
(A大学看護系 n=237 $r = -0.63$ $p < 0.05$ by spearman)

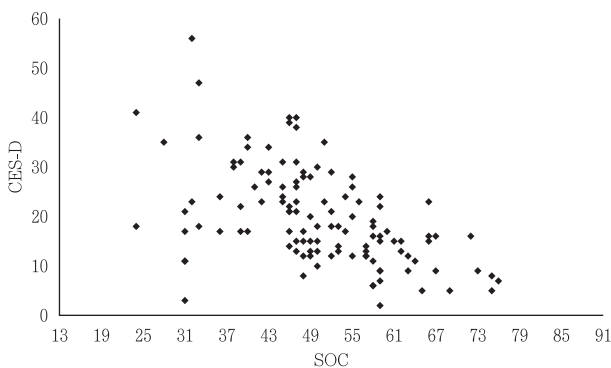


図5 CES-DとSOCの関連
(A大学福祉系 n=118 $r = -0.55$ $p < 0.05$ by spearman)

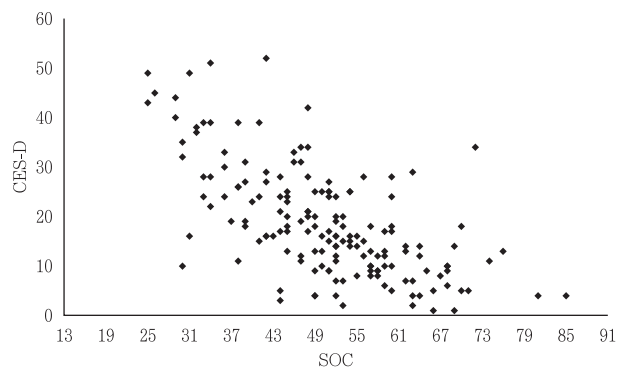


図6 CES-DとSOCの関連
(A大学歯学系 n=163 $r = -0.63$ $p < 0.05$ by spearman)

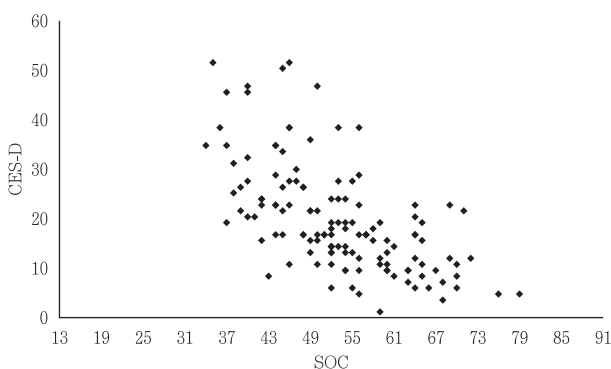


図7 CES-DとSOCの関連
(A大学薬学系 n=132 $r = -0.64$ $p < 0.05$ by spearman)

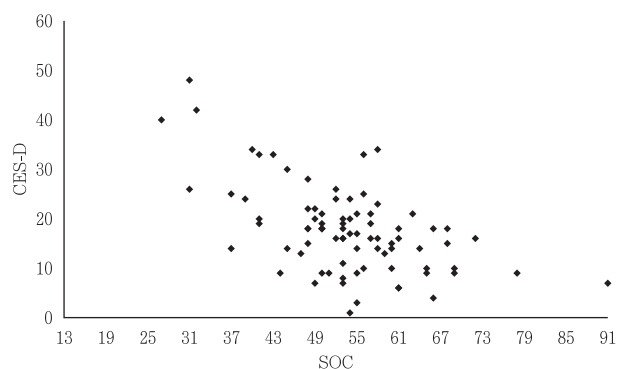


図8 CES-DとSOCの関連
(B大学リハビリテーション系 n=82 $r = -0.49$ $p < 0.05$ by spearman)

SOC得点の平均値はA大学看護系52.6±11.1, A大学福祉系50.1±10.9, A大学歯学系50.6±11.7, A大学薬学系52.7±9.5, B大学リハビリテーション系53.0±10.2, C高等学校専攻科看護系52.6±11.1であった。

6. 保健医療福祉系学生のCES-DとSOCの相関

図4にA大学看護系のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.63であり強い負の相関が認められた。図5にA大学福祉系のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.55であり中程度の負の相関が認められた。図6にA大学歯学系のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.63であり強い負の相関が認められた。図7にA大学薬学系のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.64であり強い負の相関が認められた。図8にB大学リハビリテーション系のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.49であり中程度の負の相関が認められた。図9にC高等学校専攻科看護系のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.75であり強い負の相関が認められた。

7. その他の施設・専攻別でのCES-Dの分布

表2に施設・専攻別でのCES-D及びSOCの分布を示した。

抑うつ群の該当率について施設・専攻別にみると、

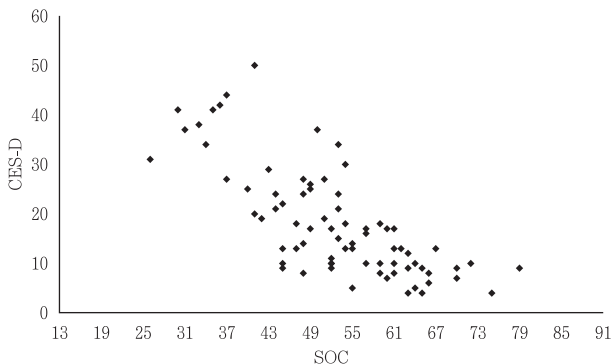


図9 CES-DとSOCの関連

(C高等学校専攻科看護 n=74 r=0.75 p<0.05 by spearman)

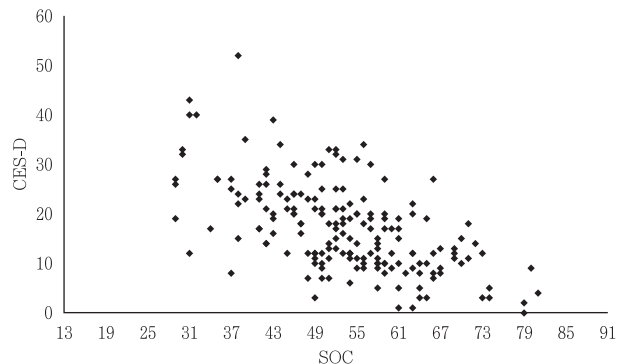


図10 CES-DとSOCの関連

(D大学文系 n=181 r=-0.59 p<0.05 by spearman)

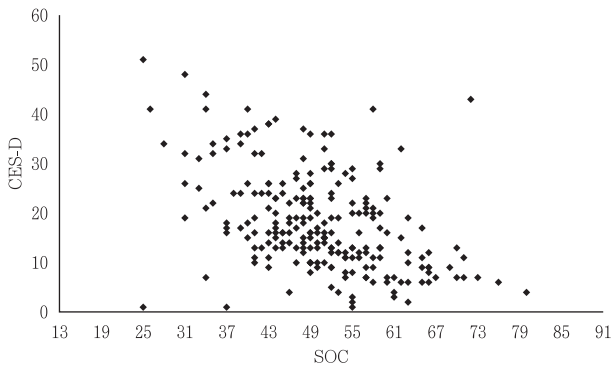


図11 CES-DとSOCの関連

(E大学経済系 n=230 r=-0.47 p<0.05 by spearman)

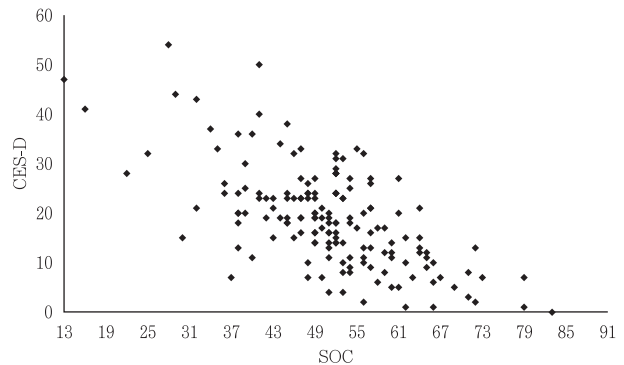


図12 CES-DとSOCの関連

(F大学教育系 n=162 r=-0.59 p<0.05 by spearman)

D大学文系50.5%, E大学経済系55.1%, F大学教育系61.3%であった。

CES-D得点の平均値はD大学文系17.1±9.0点, E大学経済系18.4±9.9点, F大学教育系19.0±10.2点であった。

8. その他の施設・専攻別でのSOCの分布

表2に施設・専攻別でのCES-D及びSOCの分布を示した。

SOCの分布について施設・専攻別にみるとD大学文系では低値群22.2%, 中値群51.9%, 高値群25.9%, E大学経済系では低値群31.1%, 中値群54.8%, 高値群14.1%, F大学教育系では低値群25.6%, 中値群54.9%, 高値群19.5%であった。

SOC得点の平均値はD大学文系53.1±10.9, E大学経済系49.9±9.7, F大学教育系50.9±11.1であった。

9. その他の施設・専攻別でのCES-DとSOCの相関

図10にD大学文系のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.59であり中程度の負の相関が認められた。図11にE大学経済系のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.47であり中程度の負の相関が認められた。図12にF大学教育系のCES-DとSOCの相関を示した。相関係数は-0.59であり中程度の負の相関が認められた。

IV. 考察

本研究の結果、抑うつ群の該当率は全体で54.6%、性別では男性54.0%、女性55.2%であった。また、CES-D得点の平均値については、全体51.7±10.8点、男性51.9±11.1点、女性51.5±10.5点であり、志渡らが5大学を対象に行った研究（志渡・澤目他，2011）と比較し、該当率、平均値ともにおおむね同様の結果であった。

保健医療福祉系学生についてみると、A大学看護系52.4%、A大学福祉系62.8%、A大学歯学系54.6%、A大学薬学系47.7%、B大学リハビリテーション系61.9%、C高等学校専攻科看護系50.0%あった。平均点については、A大学看護系52.6±11.1、A大学福祉系50.1±10.9、A大学歯学系50.6±11.7、A大学薬学系52.7±9.5、B大学リハビリテーション系53.0±10.2、C高等学校専攻科看護系52.6±11.1であり、看護福祉系だけでなく、その他の医療福祉系学部についても、保健医療福祉系学生を対象に行われた一連の研究（峯岸他，2010；澤目他，2011a；澤目他，2011b；澤目他，2012；志渡他，2012；志渡他，2014）と一致する結果であった。その他の施設・専攻別の抑うつ群の該当率は、D大学文系50.5%、E大学経済系55.1%、F大学教育系61.3%であり、平均点はD大学文系17.1±9.0点、E大学経済系18.4±9.9点、F大学教育系19.0±10.2点であった。これらの結果は、志渡らが5つの高等教育機関を対象に行った研究（志渡・澤目，2011）と同様の結果であった。このことから、高等教育機関に所属する学生の抑うつ傾向は高いことが示唆されたと考える。

SOCの分布は全体では低値群26.2%、中値群52.4%、高値群21.4%であった。性別にみると男性では低値群25.3%、中値群53.4%、高値群21.2%、女性では低値群26.9%、中値群51.5%、高値群21.6%であった。SOC得点の平均値は、全体で51.7±10.8点、性別では男性51.9±11.1点、女性51.5±10.5点であった。この結果は、志渡ら一連の研究（峯岸他，2010；澤目他，2011a；澤目他，2011b；澤目他，2012；志渡他，2012；志渡他，2014）を支持する結果であったと考える。

保健医療福祉系学生についてみると、A大学看護系では低値群25.2%、中値群53.3%、高値群22.8%、A大学福祉系では低値群26.8%、中値群57.7%、高値群15.4%、A大学歯学系では低値群32.9%、中値群44.7%、高値群22.4%、A大学薬学系では低値群24.8%、中値群51.9%、高値群23.3%、B大学リハビリテーション系では低値群18.2%、中値群59.1%、高値群22.7%、C高等学校専攻科看護系では低値群27.0%、中値群43.2%、高値群29.7%であった。これらの結果は先行研究（峯岸他，2010；澤目他a，2011b；澤目他，2011；澤目他，2012；志渡他，2012；志渡他，2014）

と同様の結果であった。

その他の施設・専攻別にみると、D大学文系では低値群22.2%、中値群51.9%、高値群25.9%、E大学経済系では低値群31.1%、中値群54.8%、高値群14.1%、F大学教育系では低値群25.6%、中値群54.9%、高値群19.5%であり、保健医療福祉系と同様に先行研究（峯岸他，2010；澤目他，2011a；澤目他，2011b；澤目他，2012；志渡他，2012；志渡他，2014）とおおむね一致する結果であった。また平均点についてみると、D大学文系53.1±10.9、E大学経済系49.9±9.7、F大学教育系50.9±11.1であり、（志渡・澤目他，2011）が5大学を対象に行った研究と同様の結果であった。

CES-DとSOCの相関についてみると、全体では-0.59、男性-0.55、女性-0.64であり、先行研究（峯岸他，2010；澤目他，2011a；澤目他，2011b；澤目他，2012；志渡他，2012；志渡他，2014）とおおむね同様の結果であった。保健医療福祉系のCES-DとSOCの相関係数についてみると、A大学看護系は-0.63、A大学福祉系は-0.55、A大学歯学系は-0.63、A大学薬学系は-0.64、B大学リハビリテーション系は-0.49、C高等学校専攻科看護系は-0.75であり、中程度から強い相関が認められた。この結果から、看護福祉系だけでなく、その他の医療福祉系学部についても、保健医療福祉系学生を対象に行われた一連の研究（峯岸他，2010；澤目他，2011a；澤目他，2011b；澤目他，2012；志渡他，2012；志渡他，2014）と一致する結果であった。また、保健医療福祉系以外の施設・専攻別には、D大学文系は-0.59、E大学経済系では-0.47、F大学教育系は-0.59であり中程度の負の相関が認められた。この結果は、保健医療福祉系学生同様、先行研究を支持する結果であったと考える。

これらの結果から、SOCを高めることが抑うつの予防につながる可能性が示唆されたと考える。

本研究の有効性はCES-DとSOCの関連について、看護福祉系学生だけでなく、その他の保健医療福祉系学生及び、それ以外の学部にも所属する学生についても一貫性が認められた点であると考え。限界は、理系分野に所属する学生などの検討を十分に行っていない点、施設・専攻毎に学年や性別での検討を行っていない点である。今後、学年別や性別の検討を深めるとともに、対象を拡大し検討を行うことが課題である。

V. 謝辞

本研究の趣旨をご理解いただき、ご協力くださった皆様に心より感謝いたします。

引用文献

峯岸夕紀子，坂手誠治，志渡晃一（2010）. 本学新入学生のうつ傾向とその関連要因. 北海道医療大学看護学部学会誌，6(1)，87-91.

- 澤目亜希, 佐藤巖光, 上原尚紘, 蒲原 龍, 岡田栄作, 志渡晃一 (2011). 看護系専門学校生の抑うつ症状とストレス対処能力 (SOC) との関連について. 北海道医療大学学部学会誌, 7(1), 89-92.
- 澤目亜希, 上原尚紘, 佐藤巖光, 池森康裕, 志渡晃一 (2012). 大学新入学生における抑うつ症状とその関連要因. 北海道医療大学学部学会誌, 8(1), 57-61.
- 澤目亜希, 上原尚紘, 佐藤巖光, 蒲原 龍, 岡田栄作, 志渡晃一 (2011). 大学新入学生の抑うつ症状とその関連要因 (第2報) ~CESD の高得点群の特徴について~. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 7(1), 93-95.
- 志渡晃一, 澤目亜希, 上原尚紘, 佐藤巖光, 池森康裕, 長谷川聡 (2011). 首尾一貫感覚 (SOC) と抑うつ症状との関連—高等教育機関に所属する学生を対象として—. 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 18, 43-48.
- 志渡晃一, 上原尚紘, 佐藤巖光, 澤目亜希, 池森康裕, 長谷川聡 (2012). 首尾一貫感覚 (SOC) と抑うつ症状との関連—医療系大学に所属する学生を対象として—. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 19(1), 75-79.
- 志渡晃一, 米田政葉, 吉田貴普 (2014). 医療福祉系大学に所属する学生の抑うつ症状とその関連要因について. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 10(1), 39-42.

受付：2016年11月30日

受理：2017年2月3日